

**製品名: SSB (リン酸化 Ser366) ウサギポリクローナル抗体****カタログ番号: APRab05472**

研究使用のみ

**概要**

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、ラット、マウス
標識	非共役
修飾	リン酸化
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:200-1:1000,ELISA 1:20000-1:40000
分子量	47kDa

**抗原情報**

遺伝子名	SSB
別名	SSB; Lupus La protein; La autoantigen; La ribonucleoprotein; Sjogren syndrome type B antigen; SS-B
遺伝子 ID	6741.0
SwissProt ID	P05455
免疫原	抗血清は、Ser366 のリン酸化部位周辺のヒト SSB 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 341-390

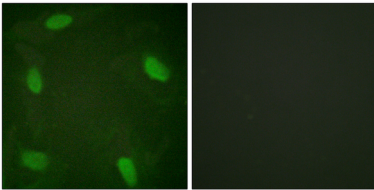
**背景**

シェーグレン症候群抗原 B (SSB) ホモサピエンスこの遺伝子によってコードされるタンパク質は、新生 RNA ポリメラーゼ III 転写産物のポリ (U) 末端への結合とエキソヌクレアーゼによる分解からの保護、プレ tRNA 前駆体の 5'末端と 3'末端の処理、RNA シャペロンとしての役割、C 型肝炎ウイルスに関連するウイルス RNA への結合など、RNA 代謝の多様な側面に関与している。シェーグレン症候群および全身性エリテマトーデスの患者の血清中には、このタンパク質と反応する自己抗体が認められる。プロモーターの選択的使用により、同じタンパク質をコードする 2 つの異なる転写産物バリエーションが生じる。[RefSeq 提供、2014 年 6 月]、疾患: 全身性エリテマトーデス (SLE) 患者の血清には、正常な細胞性 La タンパク質に対し、この抗原が異物であるかのように反応する抗体が含まれることが多い。機能: La タンパク質は RNA ポリメラーゼ III の転写において役割を果たす。転写終結因子である可能性が高い。ほぼすべての新生ポリメラーゼ III 転写産物の 3'末端に結合する。tRNA、4.5S、5S、7S、7-2 RNA を含む RNA ポリメラーゼ III 転写産物の前駆体と関連する。、PTM: リン酸化。リン酸化部位はタンパク質の C 末端側にある。、PTM: N 末端はブロックされている。、類似性: HTH La 型 RNA 結合ドメインを 1 つ含む。、類似性: RRM (RNA 認識モチーフ) ドメインを 1 つ含む。、サブユニット: DDX15 と相互作用する。RUFY1 と相互作用する可能性がある。、

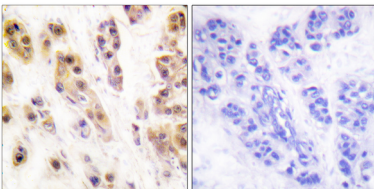
## 研究分野

全身性エリテマトーデス;

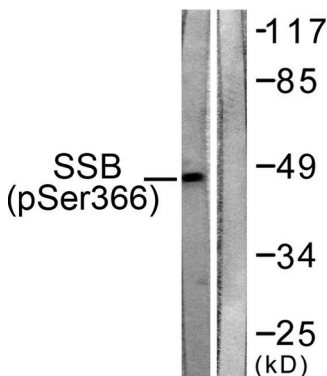
## 画像データ



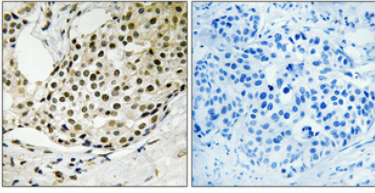
フォスコリン 40nM 30µL 処理した HeLa 細胞を SSB (リン酸化 Ser366) 抗体を用いて免疫蛍光染色で解析した。右の写真はリン酸化ペプチドでブロッキングした。



SSB (リン酸化 Ser366) 抗体を用いたパラフィン包埋ヒト乳癌の免疫組織化学染色。右の写真はリン酸化ペプチドでブロッキングした状態。



SSB (リン酸化 Ser366) 抗体を用いた 293 細胞ライセートのウェスタンブロット解析。右レーンにはリン酸化ペプチドでブロッキングされている。



パラフィン包埋ヒト乳がんの免疫組織化学染色。抗体は 1:100 (4℃、一晚) に希釈した。抗原賦活化には、高圧高温トリス EDTA (pH8.0) を使用した。抗体から得られたネガティブコントロール (右) は、免疫原ペプチドで前処理した。